

「OPEN SITE 2017-2018」

東京文化プログラム



オープンサイトは、全てのジャンルを対象に新しい表現を創造し、社会へと開いていく意欲に満ちた企画が集まるプラットフォームを目指すプログラムです。第2回となる今年度は、国内外から昨年を上回る応募があり、その中から審査を経て選ばれた7つの公募企画と、トーキョーアーツアンドスペースが推奨する1企画の合計8企画を実施します。

アートの領域横断化がますます加速する現代社会の中、既存のジャンルに囚われず、自己の表現において、自由かつ強い意志を持った意欲的な企画に、是非ご期待ください。本リリースでは7つの公募企画をご紹介します。

■ プログラム概要

実施期間： Part 1 | 2017年10月14日（土）～11月26日（日）

オープニング・トーク | 2017年10月15日（日）15:00-16:30 ゲスト：畠中 実

Part 2 | 2017年12月9日（土）～2018年1月28日（日）

オープニング・トーク | 2017年12月9日（土）15:00-16:30 ゲスト：遠藤水城

※オープニング・トークは各回とも日英通訳あり。

会場： トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

休館日： 月曜日（ただし1月8日は開館）、年末年始（12月29日～1月3日）、1月9日（火）

主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 育成支援課

後援： ブリティッシュ・カウンシル、セルバンテス文化センター、駐日韓国大使館 韓国文化院

ウェブサイト： www.tokyoartsandspace.jp（※2017年9月30日まで：www.tokyo-ws.org）

< お問い合わせ >

〒135-0016 東京都江東区東陽7-3-5 東京都現代美術館リニューアル準備室内

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 育成支援課 広報担当：市川、荻田、藤井

TEL：03-5633-6373 FAX：03-5633-6374 E-mail：press@tokyo-ws.org

※トーキョーワンダーサイトは、平成29年4月1日より東京都現代美術館育成支援課として事業運営を行っています。

※トーキョーワンダーサイトは、平成29年10月1日より「トーキョーアーツアンドスペース」に名称を変更します。

I 実施企画

【展示】会期中の開館時間内であればいつでも入場できます。予約不要、入場無料。

【パフォーマンス】特定の公演日に上演、実施されます。要予約、有料（料金は各企画により異なります）。

Part 1

〔展示〕			
企画者名	企画タイトル	会期	料金
キム・ウジン KIM Woojin (韓国)	「ブレイブ・ニュー・エクササイズ：記憶された運動」 “Brave New Exercise: Memorized Movements”	10月14日(土) ～11月26日(日) 11:00 – 19:00 (最終入館 18:30)	無料
長谷川 新 HASEGAWA Arata (日本)	「不純物と免疫」 “Impurity / Immunity”		
〔パフォーマンス〕			
リ=コンバート・プロジェクト reConvert project (スペイン)	「reC_TECH」	10月27日(金) 19:15 – 10月28日(土) 19:15 –	1,500円
クリスチャン・ディンカー Dr. Christian DIMPKER (ドイツ)	「ヴァーレンヴィルトシャフト」 “Warenwirtschaft”	11月17日(金) 19:15 – 11月18日(土) 19:15 –	1,800円

Part 2

〔展示〕			
企画者名	企画タイトル	会期	料金
黒田大祐 KURODA Daisuke (日本)	「不在の彫刻史」 “The Absence History of Sculpture”	12月9日(土) ～2018年1月28日(日) 11:00 – 19:00 (最終入館 18:30)	無料
IP ヤック=ユー IP Yuk=Yiu (香港)	「PLAY.GROUND: 香港のビデオゲームアートの展望」 “PLAY.GROUND: video game art from Hong Kong”		
〔パフォーマンス〕			
ガルヴァナイズ・アンド・フレットワーク・アンサンブルズ Galvanize and Fretwork Ensembles (イギリス)	「ハプンスタンス」 “Happenstance”	12月22日(金) 19:15 – 12月23日(土) 19:15 – 12月24日(日) 19:15 –	22日 1,500円 23、24日 2,000円

※タイトル等は変更となる場合がございます。

Part 1

キム・ウジン「ブレイブ・ニュー・エクササイズ：記憶された運動」〔展示〕



「Brave New Exercise Project: Memorized Movement」
展示風景、2016

韓国の国民体操や、日本のラジオ体操など、アジア各地で行われている運動は、その成り立ちや社会への浸透を省みるとき、東、及び南アジアにおけるアジア近代化思想の伝播、定着過程とも類似している。これらの集団体操を通じて、現代アジア諸国に依然として影響を与える、アジアの近代化について考察する。各地の住民の記憶にある「体操」を実践してもらった様子を収めた映像とドローイングからなるインスタレーションの展示。

企画者プロフィール：韓国出身。ビジュアル・アーティスト。1999年梨花女子大学洋画科卒業、2012年ゴールドスミス・カレッジ（イギリス）ファインアートコース修士号修得。あるコミュニティに自身が一定期間滞在することで、社会に存在する停滞の原因や、定着の仕方を観察者の視点から辿る。

協力：Mite-Ugro（韓国・光州）

助成：黄金町エリアマネジメントセンター（横浜）、バンブーカーテンスタジオ（台湾・台北）

■関連イベント■

アーティスト・トーク | 2017年11月25日（土）15:00 - 16:00（日韓通訳あり）

長谷川 新「不純物と免疫」〔展示〕



仲本拓史《無言の乗客》2012

—自分たちの「純粋性」を過度に守ろうとする結果、かえって自身を死滅させてしまう文明のありようを、エスポジトは「自己免疫化」と表現している。あらゆるものは「不純物」として、なんらかの免疫システムに抵触する。共存はむしろその地点から始まる。「不純物と免疫」は、「不純物」であろうとする意志とともに、時代と向き合うプロジェクトである。

—（長谷川 新）

展覧会という形式をとおして、「共生」について思考し、アートの可能性を検討するためのグループ展。本展以外でも国内外各地でさまざまな活動を実践する。

参加アーティスト：大和田 俊、佐々木 健、谷中佑輔、仲本拓史、百頭たけし、迎 英里子（予定）

企画者プロフィール：インディペンデント・キュレーター。京都大学総合人間学部で文化人類学を専攻。「展覧会」という装置の機能に関心をもち、その分析とアップデートを通じて、社会が美術を変革すると同時に、美術が社会を変革するという点について研究している。主な展覧会企画に「やわらかな脊椎」（CAS、大阪、2017）、「無人島にて—「80年代」の彫刻/立体/インスタレーション」（京都造形芸術大学ギャラリー・オーブ、京都、2014）など。現在『美術手帖』にて月評連載中。

■会期中に関連イベントあり。詳細はウェブサイトにて発表します。

協賛：アイ・オー・データ機器、ERIKA MATSUSHIMA、gigei10

協力：青山|目黒、スタジオ常世、This and That、tochka |特火点、PARADISE AIR

リ=コンバート・プロジェクト「reC_TECH」〔パフォーマンス〕

公演日時：2017年10月27日（金）、28日（土）19:15開演（19:00開場） | 料金：1,500円



楽器の進化に伴い、目覚しく変貌を遂げた打楽器の概念を体現することを試みるリ=コンバート・プロジェクト。創造する生命体として、創作のプロセスを基盤としながら、ステージと日常の境界を越えて、次の時代の打楽器演奏を目指す。彼らデュオと同世代の若手作曲家による作品を映像と融合させながら演奏する。

企画者プロフィール：1991年生まれのロベルト・マケダ（Roberto MAQUEDA）とヴィクター・バルセロ（Víctor BARCELÓ）によるデュオ。伝統的な打楽器演奏を経て、ポスト=打楽器シーンに到達し、さらにミレニアル世代へ向かう。自らが求めるステージを自問しながら、パフォーマンス、音楽、エレクトロニクス、映像などを融合したライブを行う。

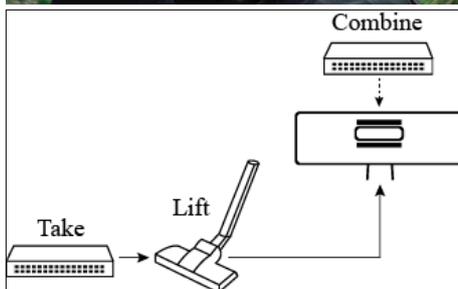
クリスチャン・ディンカー「ヴァーレンヴィルトシャフト」〔パフォーマンス〕

公演日時：2017年11月17日（金）、18日（土）19:15開演（19:00開場） | 料金：1,800円



楽器や音響機器によるパフォーマンスや、サウンドアートなどの音の領域を超えると同時に、ミュージック・コンクレートや電子音楽といった歴史的分類も乗り越えることを試みる。一般的な音響機器のほか、電気ケトル、ドライヤー、ミシンといった家電や、IT技術を駆使して、多角的に繰り広げられるパフォーマンスを実践する。本公演では、会場内の複数の場所に、機材やパフォーマンスを配置して演奏される新作「ヴァーレンヴィルトシャフト（Warenwirtschaft）」を中心としたプログラムを実施する。

参加アーティスト：Robert SCHWARZ、野口小矢佳 他



企画者プロフィール：1982年ドイツ、ハンブルグ生まれ。ベルリン在住。作曲家、音楽理論家。広範な演奏技法や、電気音響音楽のための記譜システムを発展させ、型に囚われない記譜の領域を行き来する作曲を行う。音楽学、作曲博士号取得。

協力：Jade Foundation

Part 2

黒田大祐「不在の彫刻史」〔展示〕



(参考画像)

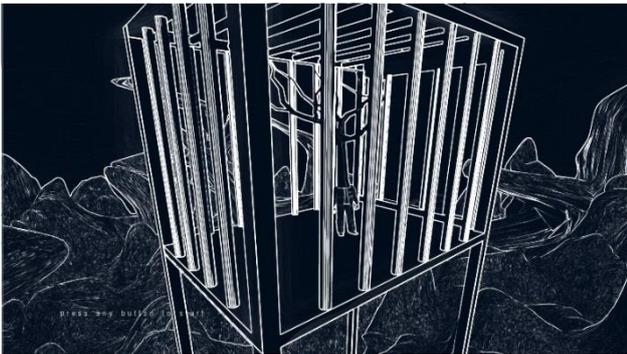
十代の頃から彫刻家・橋本平八に傾倒していた黒田大祐は、その思想や表現を研究し、自身の作品に反映してきた。本企画では、橋本平八を起点とした新しい彫刻史を実験的に仮想し、これに連なる黒田の作品を対置することで、両者の間に横たわる空白を、あるはずなのに無い「不在の彫刻史」として提示する。

橋本平八の作品と技術的変遷から、その時代の中での新しさと特異性を明らかにする映像作品や、彼の思想や時代性の影響関係について言及した映像作品などに加え、黒田が現代的に平八を解釈して体現する立体作品などで構成されるインスタレーション展示。

企画者プロフィール：京都府生まれ。「新しい自然の創造」をテーマに、地形や気候などの物理的条件と歴史などの人間の物語を手掛かりに、ビデオ、彫刻、インスタレーションを制作。近年、東アジアの近代彫刻史に関心を持ち、リサーチを進める。

■会期中に関連イベントあり。詳細はウェブサイトにて発表します。

IP ヤック=ユー「PLAY.GROUND: 香港のビデオゲームアートの展望」



アラン・クワン《BAD TRIP》2012

近年、ビデオゲームは、単に気晴らしやソーシャルネットワーキングなどのコミュニケーションツールとしての用途に限らず、アートの重要な素材としても注目を集めている。

本展では、様々な角度からビデオゲームの在り方を追求し、スクリーン（映像）とゲーム実践を融合した「スクリーン・プレイ」としての表現方法を探究する4組の香港出身アーティストを紹介する。

実際にコントローラーやキーボードで操作できる作品や、ビデオゲームの要素を取り入れた映像作品など6作品を出展する。

参加アーティスト：フイ・ワイ=キョン (HUI Wai-Keung)、アラン・クワン (Alan KWAN)、エドウィン・ロウ (Edwin LO)、IP ヤック=ユー (IP Yuk-Yiu)

企画者プロフィール：映像作家、メディア・アーティスト、インディペンデント・キュレーター。近年は、コンピューターと現代メディア・アートに基づき、映画様式と実験的ビデオゲームを融合させた作品を中心に制作している。

ガルヴァナイズ・アンド・フレットワーク・アンサンブルズ「ハプンスタンス」 [パフォーマンス]

公演日時：2017年12月22日（金）、23日（土・祝）、24日（日）19：15開演（19：00開場）

料金：12月22日：1,500円、12月23日、24日：各2,000円



ルネサンスから現代までの音楽を探求するプロジェクトのために結成された、アンサンブルズによる実験的パフォーマンス。アレンジと即興のほか、新作の演奏を、ビジュアル・アーティストのインスタレーション、エレクトロニクス、映像、テキストとともに上演。ヴィオラ・ダ・ガンバからエレキギターなどの楽器による、エレクトロ・アコースティックの可能性を探求する。各日別プログラムで構成され、22日はインスタレーションや映像作品を主としたパフォーマンス、23日はダンカン・マクレオドの新作委嘱作品「Metalization of a Dream」、24日はリンダ・バックレーの新作「24 Hours」（ともに世界初演）を発表する。

参加アーティスト：

ガルヴァナイズ・アンサンブルズ UK | ジョエル・ベル (Joel BELL)、サラ・デーシー (Sarah DACEY)、ケイト・ハルソール (Kate HALSALL)、フィル・マグワイア (Phil MAGUIRE)、クレア・オーメ (Clare ORME)

フレットワーク | 森川麻子、サム・シュタドレン (Sam STADLEEN)、エミリー・アッシュトン (Emily ASHTON)、リチャード・ブースバイ (Richard BOOTHBY)

作曲：リンダ・バックレー (Linda BUCKLEY)、ダンカン・マクレオド (Duncan MACLEOD)

企画者プロフィール：ヴィオラ・ダ・ガンバとエレキギター、raspberry pi のサンプリング、ソフトウェア Avelton Live を組み合わせ、大編成の混合アンサンブルのための新しいパフォーマンスの方向性を探求する。プロジェクトは作曲家と演奏者の間の新しい関係性を拡大させ、発展させる。

助成：Support: PRS for Music Foundation, RWV Trust

※ 推奨企画プログラムは、詳細が決定次第お知らせします。

公募募集概要

募集期間：2017年2月28日（火）～4月19日（水）

応募総数：283企画

審査員：遠藤水城（キュレーター）
畠中実（NTT インターコミュニケーション・センター[ICC]主任学芸員）
三輪眞弘（作曲家、メディア・アーティスト、情報科学芸術大学院大学学長）
近藤由紀（東京都現代美術館 育成支援課長）